

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年 3月20日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670900150号
法人名	医療法人 慈和会 大口病院
事業所名	大口病院 グループホームつどい
所在地	鹿児島県伊佐市大口大田124-3番地 (電話) 0995-23-0820
自己評価作成日	平成25年2月

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症治療病棟、重度認知症患者デイケアを有する精神科病院を母体とする医療法人によって開設されたグループホームです。夜間宿直は病院看護職員が行っており、緊急時に病院で対応出来るほか、重度認知症患者デイケアの利用で専門職によるリハビリを継続できます。

広い敷地内には生活訓練施設、自立支援グループホーム、就労支援施設、カフェレストランもあります。就労支援の一環である有機農園、パン工房、鶏舎から入手した新鮮で体に優しい食材をつどいでも毎日提供しています。又つどいの前の畑でも野菜作りを楽しみ、献立の一部になります。鶏舎には隣接する保育園の園児達が遊びに来て交流する機会もあります。

季節を感じてもらうために季節行事を大切にするとともに、利用者の方々が安心して穏やかな生活を送ることが出来るよう心掛けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体となる医療機関の敷地内に建てられ、パン工房、自家農園、鶏舎もあり、出来たてのパンや自家農園の新鮮な野菜、採れたてのたまごなどを使用した栄養バランスのいい食事は家族からも高い評価を得ている。

家族交流会に毎回ほぼ全家族の参加があり、当日はボランティアによる出しものやバイキング料理を家族と楽しめるとあって、利用者にとって嬉しい一日となっている。また、離れて生活していても家族との絆が途切れないように遠方の家族以外は利用料を持参払いにして毎月必ず足を運んでもらえるように面会を促している。また、面会時には利用者の日常の様子を記録した家族ノートに必ず、目を通してもらい、利用者の思いや心身の変化を理解してもらえるように取り組んでいる。

開設13年目となるが、開設当初からの職員もおり、離職がほとんどなく、利用者とのなじみの関係が築かれているが、馴れ合いにならないように、利用者に対する尊厳の気持ちやプライドを損ねない言葉かけ、対応の仕方など改めて職員間で検討する機会を設け、接遇チェックリストを作成し、定期的に確認するなどして職員の質の向上に努めている。

身体的に元気な利用者が多く、行動の抑制をすることのない安全で自由な拘束のないケアに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	方言を用いた独自の理念を掲げ、ホールリビングやスタッフ室に掲示し、つどい会議時、声に出しスタッフで確認している。	理念の文言に「地域と共に支えながら絆を深めていきます」とあり、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。理念はホールと事務所に掲示してパンフレットにも明記している。職員は毎月、職員会議で確認して理念の共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の加入、当病院運動会での地域の方々との交流、ボランティアの方々との訪問を受けている。高校・大学の研修の受け入れ交流もある。保育園児や近所の商店等との交流がある。	自治会に加入し地区運動会の参加や見学に出かけている。毎月、歌、紙芝居、本の読み聞かせに訪れるボランティアグループや高校生、大学生の研修の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	保育園児と病院グラウンド等での交流や花見・紅葉狩り等外出、又散歩の際、地域の方との挨拶を交わしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。利用者状況、ホームの行事内容、ヒヤリハット・事故報告、取り組み等を報告し、意見交換を行いホームのサービス向上に努めている。	自治会長・民生委員・家族・市役所担当職員・地域包括支援センター職員などの参加で2カ月に1回開催している。ホームの現状報告、ヒヤリハット・事故報告を行い、地域の困難事例や高齢者情報なども話し合っている。家族交流会時に運営推進会議を開催することもあり、ほとんどの家族の参加が得られて、普段参加できない家族にも運営推進会議を意識付けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着サービス連絡協議会に参加し、研修やホームのサービス状況の取り組み等報告し、意見交換を行っている。	市役所担当者とは運営推進会議を通じて事業所との関係を築き、2ヵ月ごとに開催している地域密着型サービス連絡協議会でも連携を図り、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関へは施錠せず利用者の居場所確認をスタッフで声掛け申し送る。又随時、拘束にあたらぬかをスタッフで確認している。外に出ることを止める事でストレスにならないように、散歩を兼ねてスタッフと一緒にゴミ出しに出たり等気分転換を図ったりしている。	重要事項説明書に身体拘束廃止に向けての取り組みを明記し、ホーム内に「身体拘束排除宣言」も掲示して拘束のないケアの実践に取り組んでいる。また、職員全員が拘束について正しく理解できるように委員会による勉強会も定期的に行っている。身体的にも元気な利用者が多く、職員の見守りと連携で利用者の行動を制限することのない安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や新聞TV等から虐待について学び確認している。何気なく利用者と言った一言でも虐待に当たらないか、傷ついていないか、言葉の暴力にならないかを常にスタッフ間で気を付けるように話しをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を受け後見人制度を理解している。ホームには1名（生活保護）夫の死亡後、キーパーソン不明の方がおられたが、姪にあたる方へ、緊急連絡先等の連絡先として了承は得る。金銭面はホーム管理であり、今後、必要が出てきた場合は支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、本人・代理人の家族へ契約書・重要事項の説明、個人情報保護、利用料金等の説明を行い、同意を得て署名押印を頂いている。又退居時は、家族へ説明を行い、理解納得を得て転居先への相談・支援をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、サービス担当者会議、又運営推進会議等で意見や要望を伺い、スタッフ間で共有・話し合っている。	日常の面会時、電話連絡時、担当者会議、運営推進会議などで要望や意見を聞き出すように努めている。毎月の支払いを窓口持参しており、遠方の家族以外は毎月必ず来訪して日常の様子を記録した「家族ノート」に目を通してもらい、家族の思いや要望を聞いてサービス向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議・ミーティング、申し送り等で出た意見をスタッフ間で確認し、要望等は運営者に出している。	申し送りの他にも問題が生じた場合は昼休みを利用して職員間で話し合う機会を設けている。また、毎月全員参加のスタッフ会議でも職員からの意見・要望を話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援と職員間の交流・気分転換が図れるように新年会・歓迎会等を毎年、開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員の知識向上、勉強のために、法人内・外部研修への参加を積極的に勧めている。外部研修後は、ホーム内の勉強会で報告・意見交換を行い、職員の知識・ケアの向上に役立てている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡協議会へ加入し、研修・事例検討会・講演会等へ参加し、同業者との交流・情報交換を行い、ケアや取り組みに活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>他</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時、まず本人にホーム内の施設見学をして頂き、緊張せずゆったりとした雰囲気話しが聞けるような雰囲気作りに努めている。又そこで納得されたから、日中のお試しや1泊2日の体験利用をして頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入所前の話し合い・情報収集を行う。家族より要望等伺い、どういう支援が必要かニーズ等を関係者で検討する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの生活状況を見てもらい、本人家族が不安に思っている事等伺い、その方のニーズの把握に努める。今後、必要とした場合の支援（認知デイケア）については、本人家族に確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方より昔の話や生活の習わし等伺い、日々の生活や行事の際に取り入れたりしている。利用者スタッフ間で感謝の言葉が自然と出るような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人とゆっくりお部屋で過ごして頂く。その際、日々の様子や健康状態も報告するようにしている。又「家族ノート」に書き留めた日々の記録に目を通してもらい情報の共有を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知ケアの継続利用や知人等の面会もある。	日常の会話や言動で利用者からの訴えや思いを把握して家族の協力ももらいながらなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の円滑な関係作りのためにスタッフが会話の橋渡しをしたりする。レク参加は全員参加以外に小グループや個人で、各自の好み合った物をおしゃべりしながら行っている。たまに「しりとり」「ことわざ」も行うが、声を出す事で会話の機会や頭の体操にもなり皆さんで楽しめている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら入院中面会に伺い病院関係者に状態や様子を確認したり、又家族と連絡を取り合い情報共有を行っている。		
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症で、なかなか自分の意思表示ができなかったりするが、日常の関わりや何気ない言葉・表情から、その方の思いや真意を感じ取るように努めている。又その事は介護支援記録に記録するようにしている。	職員の離職が少ないため利用者とのなじみの関係が築かれて会話や言動による推察で本人が安心して過ごしやすように検討している。また、発語が困難な利用者でも口の動きを読み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族やそれまでおられた病院等から生活歴や趣味等聞き取りアセスメントし、その人らしい生活や望む生活が送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の生活のペースやリズムを大事にし、日常の様子観察・把握を行います。できる事についてはなるべく自分でして頂けるよう自立支援に努め、又できるお手伝いをして頂くことで生き甲斐作りにつなげています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を伺い、スタッフや関係者から情報収集し、その方のニーズを割り出し、実現していく優先順位を本人家族、関係者で確認し決めている。又月1回評価を行っている。	本人・家族の思いや希望を聞いて個々に応じた個別の介護計画を作成している。日常生活支援の他に、可能な限り、家族の定期的な面会や外出支援を入れた介護計画を作成している。変化があれば都度見直しを行い、変化がなくても定期的（6カ月ごと）に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護支援経過記録に、日常の様子、心身状態、本人が発した言葉は、なるべくそのまま記録し、スタッフ間で情報共有を行う。又変化や見直しが必要な場合は、その都度、スタッフ間で確認している。経過記録はケアプランに添った記録を付けるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方におられる家族や通院への付添が困難と思われる家族については、必要に応じて通院付添、送迎等の支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長・民生委員参加の運営推進会議への出席や地域の運動会・敬老会での保育園児との交流があり楽しまれている。	/	/
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが母体の病院からの入所である為、受診はスタッフが付き添う。それ以外の他科受診については、基本は家族の付添であるが、必要に応じて通院に付き添う事もある。夜間帯は、母体病院からの看護師等が夜勤を行う事が多いので状態の変化にも対応できている。	ほとんどの利用者が入居前から法人の医療機関がかかりつけ医であるため継続している。他科受診については本人、家族の状況に応じてホームでも柔軟に受診同行を行っている。母体病院の看護師が夜勤を行っており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>夜勤は母体病院からの看護師等が夜勤を行う事が多いので、健康管理や状態の変化にも対応できている。母体病院の受診の際、看護師への連絡報告の際、相談にも応じてもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した際、病院への情報提供や面会を行っている。又その際、病院スタッフから情報収集・交換も行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の対応は、母体病院で契約時に説明し、同意を得ている。現在、そういう方はおられないが、病院関係者・ホームスタッフで、いつでも連携がとれるようにしている。</p>	<p>重度化・看取りに関するホームの方針は契約書にも明記して、入居時に説明している。入居後は利用者の身体状況に応じて家族と方向性を話し合い、ホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故発生時の対応・手当について研修を受け、又消防の研修でも心肺蘇生法・AEDの使用方法についても学び、他のスタッフにも報告し、伝達している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、防災訓練（夜間想定等）を実施し、通報・避難訓練、消火器の取り扱い使用法を学んでいる。又母体病院との協力体制もできている。	法人全体で消防署立ち会いによる総合訓練とホーム単独での自主訓練を実施しており、併設されている法人の関連施設とは協力体制が築かれている。緊急通報装置、消火器、スプリンクラーは設置されており、備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会でプライバシーについても話し合いを行う。その際、利用者の方がおられる所で排泄の有無等について、普通に話をする時がある等の意見が出た事で反省をする。プライバシーや自尊心を大事にした対応や声掛けを行うようスタッフ間で心掛けている。	人格を尊重した言葉かけや対応に心がけて、職員間で排せつの声かけや呼び名についても改めて検討する機会を設けている。また、接遇チェックリストを作成して定期的に確認し、職員の資質向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に応じたコミュニケーション方法で支援している。又意思表示が出来ない方は、非言語コミュニケーションを用い表情や態度から、思いや願い等を確認し、利用者の立場に立った支援をするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の生活の流れはあるが、本人の体調や状態に応じたり、又希望がある場合は、本人が過ごしたいようにしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人ができる身だしなみは、自分でしてもらっている。服やスカーフ等の装飾品も本人の好みに任せている。又認知ケア利用の方は、月1回ビューティサロンでお化粧品や顔のマッサージも行っている。散髪は美容院の方に来てもらい本人の好みを聞きかたしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人敷地内に農園・パン工房・鶏舎があり、新鮮で安全な食材を提供している。随時、好みを聞いたり誕生日には、本人の好きな物を提供している。お手伝いのできる方について、片付け等お願いしている。また外食を実施する時もある。	食材の調理方法を教わったり、おせち料理、そば打ち、味噌作りなど職員と共に行って「食」の楽しみと季節を感じられるように支援している。また、時には近所の喫茶店に外食ランチに出かけたり、ラーメン流し、花見弁当、バイキング料理にして食事を楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事・水分摂取量は、毎日、チェッ クし、バランスのよい献立作りに努 めている。又水分が摂れない場合 は、栄養士に相談し、とろみ剤も使 用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	食前後のうがいの声掛けや個別 に誘導し見守り介助を行っている。 夕食後は義歯洗浄し、入れ 歯洗浄剤を使用している。昼食 前、口腔体操を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や1人ひとり の排泄パターンを把握し、随 時、トイレ誘導を行っている。 夜間、オムツ使用の方も、日中 はトイレ誘導を行っている。	個人別排せつ表を活用し、排せつパ ターンを把握して日中はトイレでの 排せつを支援している。現在、自立 している利用者もおり、維持できる ように職員のさりげない声かけや誘 導で排せつの自立に向けた支援を 行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	野菜・果物・ジュース等繊維質 の食材を取り入れたり、歩行運 動やラジオ体操で排便を促すよ うにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴であるが、冬場は風邪等感染症も考慮しながら入浴を実施している。	基本的には週2回の入浴支援を実施している。入浴をためらう利用者には声かけなどを工夫して気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は、本人に確認し、希望に応じて実施している。又無理に昼寝は勧めない。夜間、眠れない場合は、無理に部屋に連れていったりはしない。寝付けない場合は話をする時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬をファイルし、随時、確認しながら服薬管理を行っている。状態の変化により、服薬が変更調整された場合は、記録し、スタッフで申し送り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の得意分野を伺いながら、又1人ひとりに応じた家事やお手伝いをお願いしたりしている。昔、作っていた味噌作り、梅干し作り、ソバ打ち等、昔話をしながら各自の作り方等伺いながら一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に近くのコンビニまで散歩を兼ねて買い物に出掛けたり、随時、散歩もしている。近くのレストランまでランチ外食も行っている。	天候や利用者の体調をみて散歩や買い物に出かけている。時には、ソーメン流し、季節の花見や紅葉狩りにも出かけて季節を感じられるように支援している。また、近所のレストランでの外食ランチは利用者大変喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お花見や紅葉狩りの際、本人の好きなお菓子を買っている。又コンビニへも買い物の際、支払いのできる利用者には、本人にお金を渡して買い物を楽しんでもらう。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>遠方の家族と電話で話したり手紙の書ける方には、お手紙の支援も行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールリビングから台所が見えスタッフが作る食事の匂いをかいだり、又台所に目をやりながら「今日のご飯はなんやろか」「お腹がすいた」と言われる。テーブルには季節の花を置く事もある。廊下の壁には、行事の写真や作品を掲示している。又リビングホールには加湿器を置き空気の乾燥にも気を付けている。</p>	<p>利用者が作成した季節の飾り物や行事の際の写真リビングや廊下に貼り、見る楽しみも味わえるように工夫している。また、リビングから直接出入りができるウッドデッキもあり、開放感がある。台所もオープンな作りのため、食事においても五感を刺激してくれる。また、広い廊下にもソファが置かれ、思い思いに過ごせるように配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にソファや椅子を置き自由に使ってもらっている。又天気の良い日は、ウッドデッキから外を見たり日光浴を行っている。又ホールリビングには、仏壇を置き、いつでも各自が拝んだりできるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・自分で描いた絵・昔、作っていた手まり・デイクエアで作った作品・ぬいぐるみ、お花等、本人の好まれる物を、部屋の壁やタンスの上に飾っている。	ベッドとタンスは備え付けであるが、寝具、なじみの物品、利用者の作品、お気に入りの装飾品などで居心地よく過ごせるよに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行に妨げにならないように、ソファや椅子以外の物は置かないようにしている。部屋にはカレンダーを置きめくれる方には、自分でめくるようにしてもらっている。		



**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない